

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	学び舎with梓川教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 13日		~ 2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	2026年 3月 6日		~ 2026年 3月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	5領域を踏まえて児童の様子を日々観察し、その時々 の課題を活動計画に反映するよう努めている。	活動中は、児童が安心して取り組めるよう環境設定や 声かけを工夫し、発達段階に応じた支援方法を選択し ている。	児童の変化をよりの確に把握できるよう、日々の記録 や振り返りの質を高め、支援内容との結びつきを強 化していきたい。
2	月ごとの活動では、児童が無理なく取り組めるよう環 境調整や声かけを行い、個々の発達に応じた支援を 意識して実践している。	児童の行動観察から得られた課題を月間活動へ反映 するサイクルを意識的に運用している。活動場面で は、段階的支援・モデル提示・環境調整などの支援技 法を状況に応じて選択し、児童が主体的に参加でき るよう工夫している。	職員間での情報共有や支援方法の統一を進め、児 童にとって一貫した支援環境を整えていく。
3	日々の観察をもとに支援内容を柔軟に調整し、児童 が安心して参加できる環境づくりを継続している。	児童の変化に応じて支援内容を柔軟に見直し、継続 的な成長を促す取り組みを行っている。	支援方法の標準化と見直しを継続的に行い、児童の 課題に応じた適切な支援が安定して提供できる体制 づくりを進める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流・他機関との連携機会の不足	事業所内での活動が中心となり、外部施設との連携 や地域の子どもの交流を企画するための人的・時間 的余裕が十分に確保できていない	事業所内外での交流イベントの企画を進め、あわせ て地域施設との連携を強化していくことで、こどもたち の経験の幅を広げていく。
2	保護者同士の交流機会の不足	感染対策を優先した運営が続いたため、対面での集 まりを企画しづらい状況が長期化したことも影響して いる。	親子参加型イベントや希望者向け保護者会の開催な ど、交流の場を設けていく。
3	音環境・空間構造の課題	相談室・職員室・活動スペース・静養スペースを同一 空間内で確保する必要があり、構造的な制約が環境 整備の難しさにつながっている。	静と動の活動を組み合わせるなど環境面での工夫は 行っているものの、児童がより過ごしやすくなるよう、 さらなる環境調整が必要である。